



<b>東京部会(第 69 回)</b>	
日 時:	2014 年 9 月 24 日 (水) 19:00-20 : 30
場 所:	日本大学経済学部
参加者 :	12名。篠原(同志社大学)、加藤(日本大学)、小巻(日本大学)、鍋島(教育実践オフィスF)、大川(川口市立仲町中学校)、中沖(清水書院)、鈴木(日本経済教育センター)、石山(東京証券取引所)、榊原(東京証券取引所)、高橋(鳴門教育大学)、塙(都立府中東高)、新井(都立小石川中等教育)[順不同]
<b>【内容要旨】</b>	
<p>(1) 夏の経済教室の総括が、石山晴美氏(東京証券取引所)から詳細な資料とともに報告されました。</p> <p>参加者のアンケートからは、中学の実践報告の評価が高かったこと、歴史シリーズや時事問題の解説、教科書を読み解くシリーズには高い評価と継続の要望があること、東京高校でBasicコースを設けたことに対する評価は高いが、内容に関しては検討の余地があること、講演の評価が二分されていること、教科書の配布が有難いとの声が多かったことなどが浮かび上がっていました。運営に関しては多くの賛辞がよせられ、この夏の教室が定着してきていることがうかがわれました。これを受けて、来年度のあり方についての意見交換が行われ、さらにブラッシュアップしたものを企画することが確認されました。</p> <p>(2) 篠原代表から、大阪部会の報告、ネットワークが現在取り組み中の企画、秋の経済教室の取り組みなどの報告と討論が行われました。また、3月の年次総会の日程(3月28日予定)の検討も行われました。</p> <p>(3) 鍋島修一氏(教育実践オフィス代表)より、大学生の修学時間と授業での教員の指示との関連のデータと内容の説明がありました。大学生は入学偏差値にかかわらず、二時間以上の授業外での学修と授業内容の理解の相関が高いこと、また、それを行う学生の比率は変わらないこと。教員の授業内容への指示によって学修時間や取組は変化することが実証されたというものです。この概略はネットワークのHPから参照することができます。</p> <p>(4) 実践報告では、塙恵理子先生(都立府中東高)から、7月に実施した月に実施した「割引現在価値」に関する授業「恋愛と時間の経済学」の実践報告(加藤先生講義)とその改案が、授業の生徒の反応とともに報告されました。割引現在価値をいかにやさしく教えるか、それを踏まえてどのような知見が生徒に生まれるかに関して討論が行われ、さらに実践の追試を行ってゆくことが確認されました。関連して、篠原代表からは、経済学を教えるのではなく社会の仕組みを教えることが大事なので、それを踏まえて授業を行う必要があるとの指摘もなされました。</p> <p>(5) 小巻泰之先生(日本大学)から、最近のGDPの減少に関する解説がありました。消費税増税の影響を考えると落ち込みは当然で、問題はトレンドなのでそれを見てゆく必要があり、多くのマスコミはミスリードしているとの指摘がなされました。</p> <p style="text-align: right;">( 文責 新井 )</p>	
<p>次回開催予定: 2014年11月15日 15:00~16:00 場所は日本大学経済学部7号館。</p> <p>議題は、年次大会、ほか。</p>	